

『ミュージズは溺れない』

「自分に生まれてよかったって、思ったことある？」
美術部の朔子は、船のスケッチをしている最中、海に転落し溺れてしまう。同級生の西原が、その姿を絵に描き、絵画コンクールで受賞。絵は学校に飾られるハメに。ある日、朔子は西原から新作のモデルを頼まれるが…。

監督・脚本：浅雄 望 撮影監督：大沢佳子 制作担当・スケジュール：半田雅也 美術：栗田志穂 ヘアメイク：佐々木ゆう 音楽：古屋沙樹 カラリスト：稲川実希 ステール：内藤裕子 出演：上原実矩、若杉 凜、森田 想、川瀬陽太、広澤 草 [82分]

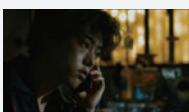
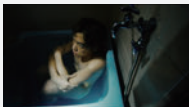


©カプフィルム

『情動』

生きる理由も、死ぬ理由も失った青年が見た景色とは——。
新型コロナウイルスが蔓延し、未曾有の事態に陥った東京。ロックダウンから三ヶ月が経った頃、人間としての感情が徐々に蝕まれていることに、マモル(29)はまだ気づいていなかった…。

監督：林 隆行 脚本：吹上洋佑、林 隆行 撮影：武田浩明 照明：織田 誠 美術：末広 豪 録音：奥村宏貴 音楽：OORUTAICHI 出演：吉村界人、吉倉あおい、大津尋葵 [30分]



『魚の目』

「私たちはまだ、弱さを上手く愛せないでいる。」
“魚の目に水見えず人の目に空見えず”そこにあるがゆえに、目の前のものは見えない。優等生の殻をかぶり自分の本心を出せない怜奈。先生と逢瀬を重ねる自由奔放な海。弱さを抱え、狭い水槽の中でもがき生きる彼女たちの青春群像劇。

監督：ますだあやこ 監督・脚本：板野侑衣子 プロデューサー・撮影：武村敏弘 プロデューサー・助監督：向田 優 照明：古川昌輝 録音・整音：松陰信彦 美術：富田大輔 主題歌：安藤明子 出演：島田愛梨珠、若草、川崎雄斗、富士田伸明、古賀柚奈 [52分]



監督
<p>浅雄 望 あさおのぞみ</p> <p>プロフィール</p> <p>広島県出身。関西大学、立教大学大学院で映画理論と映画制作を学ぶ。卒業後は、助監督として映画の現場に携わる。</p> <p>受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 22 回 TAMA NEW WAVE コンペティション グランプリ & ベスト女優賞 (上原実矩)
<p>DIRECTOR'S COMMENT</p> <p>「 映画に救われ生き延びてきました。本作を通して誰かが少しでも息がしやすくなれば、それ以上に嬉しいことはありません。」</p>



『PARALLEL —パラレル—』

少女はなぜ殺人鬼に恋をしたのか？
両親から虐待を受けていた過去を持つ舞は、ある日、アニメキャラクターのコスプレ姿で殺人を繰り返すコスプレ殺人鬼に遭遇する。不思議と舞に興味を惹かれた殺人鬼は自分の正体を隠し、舞に近づいていくのだった。

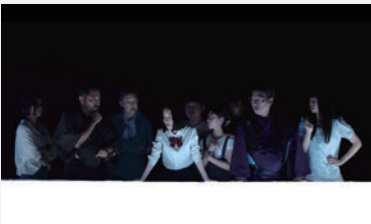
監督・脚本：撮影・編集・VFX：田中大貴 音楽：加藤賢二 音楽プロデューサー：菊地智敏 録音：Samadova Tahmina 出演：植葉ももな、芳村宗治郎、菅沢こゆき、十代修介、ひと：みちゃん [84分]



『B/B』

一夏の忘却、二人の原罪、十三番目の愉悦。
東京オリンピック中止と新興宗教によるテロ未遂事件。2つの大事件の影で起きた惨殺事件「イカロス」。被害者の息子士郎と交流のあった紗凧は刑事から取り調べを受ける。解離性同一性障害を患う彼女とその人格達は各々の視点から回想を始めるが…

製作・監督・脚本・編集・美術：中濱宏介 撮影・照明：小林潤樹 録音：酒井朝子 助監督：小野若菜、小野隼佑 音楽：堀本 陸、馬瀬みさき ホスターデザイン：さなだケイスイ 出演：倉嶋かれん、中澤康心、佐波太郎、西村風音、騎馬穂乃佳 [77分]



COMMENT

今、日本映画は世界の映画祭で高い評価をうけています。田辺・弁慶映画祭からも、多くの監督たちが世界へ羽ばたいています。その第一歩を、今年の弁慶映画祭で踏み出してみませんか。皆様の、既成概念にとられない、自由な発想の作品をお待ちしています。

—— 掛尾良夫（田辺・弁慶映画祭プログラムディレクター）

コロナ禍は映画製作の場に混乱をもたらしたが、それは自主映画にとっても同じだった。だが若き映画監督たちにとって、混沌とした社会状況は創作のプロセスや題材の糧になっている。1895年以来、どんな時代も映画は作られ続けてきた。その未来と継承を担う作品群がここにある。

—— 松崎健夫（映画評論家）

映画は作って終わりではない。観客に届けることで完成に向かい、作り手や演者も成長する。毎年「田辺・弁慶映画祭」で出会った方々が、テアトル新宿、シネ・リーブル梅田での上映で大きくなっていくのを見ることこそ、我々にとって至福の喜びである。

—— 松崎まこと（映画活動家 / 放送作家）

監督
<p>田中大貴 たなかだいき</p> <p>プロフィール</p> <p>日本大学芸術学部映画学科監督コース卒。卒業制作の短編ヒーロー映画『FILAMENT』が国内外の様々な映画祭で入選・受賞。『PARALLEL』は長編初監督作品。</p> <p>受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 31 回 ゆうばり国際ファンタスティック映画祭 2021 ファンタスティック・ゆうばり・コンペティション部門 グランプリ&フィルミネーション賞 4th Latitude Film Awards 2021 Gold Award うえだ城下町映画祭 2021 第 19 回自主制作映画コンテスト 入選 第 4 回 東京神田神保町映画祭 2021 ハンブルグ日本映画祭賞
<p>DIRECTOR'S COMMENT</p> <p>「 心に傷を負いながらも、必死に生きる登場人物たちの物語です。多くの方に、この作品が届くことを願っています。」</p>



監督
<p>林 隆行 はやしとかゆき</p> <p>プロフィール</p> <p>立命館大学法学部卒。第 1 回未完成映画予告編大賞にて『浅草スマイル』が堤幸彦賞受賞。短編映画プロジェクト“MIRRORLIAR FILMS”にて『そこにいようとおもう』が選出。</p>
<p>DIRECTOR'S COMMENT</p> <p>「 未曾有の事態が続く世の中だからこそ、“忘れてはいけない”と全身全霊を込めて作った作品です。是非本作を見て一緒に考えて頂けたら幸いです。」</p>



■ 併映作品(予定)

限定上映『そこにいようとおもう』

同級生の葬式のため、久々に地元で親友と再会する学。あの頃と同じ気持ちで語り合おうとするが…。[15分]

新作撮り下ろし『海の夜明けから真昼まで(仮)』

49 日間の監禁から解放された女子高生の麻衣。ある秘密を抱えたまま、復学していつものように高校に行くが…。不世出の天才、漫画家 うめざわしゅんの原作が遂に映画化。[45分予定]

監督
<p>ますだあやこ</p> <p>プロフィール</p> <p>1996 年生まれ、25 歳。奈良県出身、京都府在住。同志社女子大学大学院 卒</p>
<p>DIRECTOR'S COMMENT</p> <p>「 目に見えないから、見ないままで良いとは思えなかった。一緒に探してもらえませんか。私の弱さを、大切なことを。」</p>
<p>板野侑衣子 いたのゆいこ</p> <p>プロフィール</p> <p>2000 年生まれ、21 歳。岡山県出身、京都府在住。同志社女子大学・学芸学部・メディア創造学科 3 回生。</p>
<p>DIRECTOR'S COMMENT</p> <p>「 少しでも人を愛せるように。そんなことを思いながら作品を作っています。この作品が沢山の人の元に届いて欲しいです。」</p>
<p>受賞歴</p> <ul style="list-style-type: none"> 第 24 回京都国際学生映画祭 最終審査員 行定勲賞



■ 併映作品(予定) 板野侑衣子監督 新作撮り下ろし『あいまみえ(仮)』

夫の遼と二人暮らしの百合子。指輪を排水口に落としてしまったことをきっかけに夫婦の形に気付いていく。愛ってなんだっけ？

田辺・弁慶映画祭セレクション2022 概要

【 料金 】
一般・大専 1,400円 シニア 1,200円 水曜サービス 1,200円
※キネマ旬報社主催、映画検定 1～4 級の方、証明書持参で 1,200 円
 ※各種割引、株主券対応可 ※前売券販売予定 価格 1,000 円均一 (各作品毎)

【 上映期間 】
テアトル新宿 — 2022/9/16 (金) ～ 10/6 (木)
シネ・リーブル梅田 — 2022/10/14 (金) ～ 10/20 (木)

イベント・上映作品・時間等の詳細は
劇場または映画祭ウェブサイト、Twitter をご参照ください

新宿駅東口 伊勢丹メンズ館隣 B1F
 〒:テアトルシネマグループ
テアトル新宿
 03 (3352) 1846 ttcg.jp

梅田スカイビル(空中庭園)タワーイースト 3F
 〒:テアトルシネマグループ
シネ・リーブル梅田
 06 (6440) 5930 ttcg.jp